

# 外国語活動

## 目 次

1	外国語活動新設のポイント	1
2	外国語活動の目標のポイント	3
3	外国語活動の内容のポイント	5
4	指導計画の作成と内容の取扱いのポイント	6
5	外国語活動Q&A	10
6	指導例	13

## 1 外国語活動新設のポイント

### (1) 外国語活動新設の経緯

#### ○ 英語教育の開始時期の見直し

昭和61年4月、臨時教育審議会「教育改革に関する第二次答申」の第3部第1章(3)「外国語教育の見直し」において、「英語教育の開始時期についても検討を進める」とされた。

#### ○ 国際理解教育の一環としての導入

平成10年に改訂された学習指導要領により、「総合的な学習の時間」が設けられるとともに、学習指導要領の総則において、総合的な学習の時間の取扱いの一項目として、「国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等を行うときは、学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにすること」と規定された。これにより、全国の小学校において、いわゆる英語活動が広く行われることとなった。

#### ○ 外国語活動の新設に向けて

平成19年度小学校英語活動実施状況調査では、全国の小学校の約97%が何らかの形で英語活動を実施していることが分かった。平成20年1月中央審議会答申の中で、小学校段階の外国語活動については次のように述べられ、外国語活動の新設が答申された。



小学校段階にふさわしい国際理解やコミュニケーションなどの活動を通じて、コミュニケーションへの積極的な態度を育成するとともに、言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際感覚の基盤を培うことを目的とする外国語活動については、現在、各学校における取組に相当ばらつきがあるため、教育の機会均等の確保や中学校との円滑な接続等の観点から、国として各学校において共通に指導する内容を示すことが必要である。その場合、目標や内容を各学校で定める総合的な学習の時間とは趣旨・性格が異なることから、総合的な学習の時間とは別に高学年において一定の授業時数（年間35単位時間、週1コマ相当）を確保することが適当である。

#### ○ 外国語活動の新設

平成20年3月28日の小学校学習指導要領の改訂により、小学校第5学年及び第6学年に外国語活動が位置付けられた。

### (2) 外国語活動新設の趣旨

#### ○ 外国語活動の新設は、中央教育審議会の以下の答申を踏まえている。

- ・ 社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存や持続可能な発展に向けて国際協力が求められるとともに、人材育成面での国際競争も加速していることから、学校教育において外国語教育を充実することが重要な課題の一つとなっている。
- ・ 我が国においては、外国語教育は中学校から始まることとされており、現在、中学校

においてあいさつ、自己紹介などの初歩的な外国語に初めて接することとなる。しかし、こうした活動はむしろ小学校段階での活動になじむものと考えられる。また、中学校外国語科では、指導において聞くこと及び話すことの言語活動に重点を置くこととされているが、同時に、読むこと及び書くことも取り扱うことから、中学校に入学した段階で4技能を一度に取り扱う点に指導上の難しさがあるとの指摘もある。こうした課題等を踏まえれば、小学校段階で外国語に触れたり、体験したりする機会を提供することにより、中・高等学校においてコミュニケーション能力を育成するための素地をつくることが重要と考えられる。

- ・ 小学校段階における英語活動については、現在でも多くの小学校で総合的な学習の時間等において取り組まれているが、各学校における取組には相当のばらつきがある。このため、外国語活動を義務教育として小学校で行う場合には、教育の機会均等の確保や中学校との円滑な接続等の観点から、国として各学校において共通に指導する内容を示すことが必要である。

この場合、目標や内容を各学校で定める総合的な学習の時間とは趣旨・性格が異なることとなる。また、小学校における外国語活動の目標や内容を踏まえれば一定のまとまりをもって活動を行うことが適当であるが、教科のような数値による評価にはなじまないものと考えられる。これらのことから、総合的な学習の時間とは別に高学年において一定の授業時数（年間35単位時間、週1コマ相当）を確保する一方、教科とは位置付けないことが適当と考えられる。

なお、外国語活動においては、中学校における外国語科では英語を履修することが原則とされているのと同様、英語を取り扱うことを原則とすることが適当であることも提言されている。

### (3) 外国語活動の目標及び内容等

#### ○ 教育課程上の位置付け

- ・ 外国語活動として第5学年及び第6学年において、それぞれ年間35単位時間の授業時数を確保する。
- ・ 英語を取り扱うことを原則とする。

#### ○ 目標の要点

- ・ 外国語活動の目標をコミュニケーション能力の素地を養うこととし、中学校との連携を図る。
- ・ 外国語を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に重点を置く。
- ・ 外国語活動の目標については、学年ごとに示すのではなく、より弾力的な指導ができるよう、2学年間を通した目標とする。

#### ○ 内容の要点

- ・ 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図るための内容と、日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めるための内容との二つとする。
- ・ 目標にある「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ」ることは、日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めさせる内容の中に含める。

### ○ 外国語活動における「指導計画の作成と内容の取扱い」の要点

- ・ 学年ごとの目標については、各学校において児童や地域の実態に応じて、適切に定めることとする。
- ・ 言語や文化については体験的な理解を図ることとし、指導内容が必要以上に細部にわたったり、形式的になったりしないようにすることとする。
- ・ 指導計画の作成や授業の実施については、学級担任又は外国語活動を担当する教員が行うこととする。
- ・ 道徳の時間などとの関連を考慮しながら指導することとする。

## 2 外国語活動の目標のポイント

### ○ 目標

外国語を通じて、①言語や文化について体験的に理解を深め、②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、③外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

外国語活動の目標は次の三つの柱から成り立っている。

- ① 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
- ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ③ 外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

以上の三つの柱を踏まえた活動を、外国語を通じて統合的に体験することで、中・高等学校等における外国語科の学習につながるコミュニケーション能力の素地をつくらうとするものである。

#### ①について

児童のもつ柔軟な適応力を生かして、言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際感覚の基盤を培うため、国語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する理解を深めることが重要である。



- ・ 知識のみによって理解を深めるのではなく、体験を通して理解を深めること。
- ・ 文化に関しては、理解を深めることにとどまらず、例えば、地域や学校などを紹介したり、地域の名物などを外国語で発信したりすることなども考えられる。

#### ②について

コミュニケーション能力の素地を育成するためには、コミュニケーションへの積極的な態度を身に付けることが重要である。

### コミュニケーションへの積極的な態度とは

日本語とは異なる外国語の音に触れることにより、外国語を注意深く聞いて相手の思いを理解しようとしたり、他者に対して自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感したりしながら、積極的に自分の思いを伝えようとする態度



- ・体験を通してジェスチャーなどさまざまなコミュニケーションの方法に触れさせることも大切。

### ③について

児童の柔軟な適応力を生かして、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、聞く力などを育てることが適当である。



- ・中学校段階の文法等を単に前倒しするのではなく、あくまでも、体験的に「聞くこと」「話すこと」を通して、音声や表現に慣れ親しむこと。

### ①～③について



- ・パターン・プラクティスやダイアログの暗唱など、音声や基本的な表現の習得に偏重して指導しないこと。
- ・「聞くことができること」や「話すことができること」などのスキル向上のみを目標とした指導にならないこと。

### コミュニケーション能力の素地とは

小学校段階で外国語活動を通して養われる、言語や文化に対する体験的な理解、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみを指したものだ。これらは、中・高等学校の外国語科で目指すコミュニケーション能力を支えるものであり、中学校における外国語科への円滑な移行を図る観点から、目標として明示している。

### 3 外国語活動の内容のポイント

#### (1) 内容の構成

- 学年ごとに内容を示すのではなく、2学年間を通じて達成される内容を示している。
- 目標は、「言語と文化に関する事項」、「コミュニケーションに関する事項」、「外国語の音声や基本的な表現に関する事項」の三項目から成り立っているが、内容としては、「主としてコミュニケーションに関する事項」と「主として言語と文化に関する事項」とで構成している。



- ・ 児童の実態に応じて、学年ごとの指導内容を設定し、また、繰り返して指導するなど、2学年間を通して柔軟に指導する。
- ・ 2つの内容に関する活動を外国語を通して行うことで、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。

#### (2) コミュニケーションに関する事項

- 積極的にコミュニケーションを図ることができるように、3つの指導内容を設定。
  - ① 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
 

外国語を用いて、さまざまな相手と互いの思いを伝え合い、コミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験する。
  - ② 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
 

小学校段階にある児童の柔軟な適応力を生かし、音声を中心とした活動を行う。また、外国語を初めて学習することを踏まえ、児童に過度の負担をかけないために、「外国語を聞いたり、話したりすること」を主な活動内容としている。
  - ③ 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。
 

多くの表現を覚えたり、細かい文法事項を理解したりすることよりも、実際に言語を用いてコミュニケーションを図る体験を通して、その大切さに気付かせる。普段使い慣れていない外国語を使用させることによって、言語を用いてコミュニケーションを図ることの難しさを体験させるとともに、その大切さも実感させる。

#### (3) 言語と文化に関する事項

- 日本と外国との言語や文化について、体験的に理解を深めることができるように、3つの指導内容を設定。
  - ① 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
 

実際に英語で歌ったりチャンツをしたりすることを通して、英語特有のリズムやイントネーションを体得することにより、児童が日本語と英語との音声面等の違いに気付くなど、児童の柔軟な適応力を十分生かし、言葉の面白さや豊かさに気付かせる。

- ② 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があ  
ることに気付くこと。

日本の文化を含めたさまざまな国や地域の生活、習慣、行事などについて、児童にと  
って身近な日常生活における食生活や遊び、地域の行事などを取り扱う。体験的な活動  
を通じた日本の文化と異文化との比較により、さまざまな見方や考え方があること  
に気付くとともに、我が国の文化についても理解が深まる。

- ③ 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

A L Tや留学生などのネイティブ・スピーカーや地域に住む外国人など、異なる文化  
をもつ人々との交流を通して、体験的に文化等の理解を深める。

## 4 指導計画の作成と内容の取扱いのポイント

### (1) 指導計画の作成

- 英語を取り扱うことを原則とする。

- ・英語が世界で広くコミュニケーションの手段として用いられていること。
- ・中学校における外国語科は英語を履修することが原則とされていること。



- ・英語以外の外国語を取り扱う場合は、中学校外国語科との関係にも十分配慮する。
- ・英語を取り扱う際にも、さまざまな外国語に触れたり、英語圏以外の文化について理  
解を深めたりするよう工夫する。

- 各学校においては、児童や地域の実態に応じて、学年ごとの目標を適切に定め、2学年  
間を通して外国語活動の目標の実現を図るようにする。

- ・各学校が主体的に学年ごとの目標を定める。

- 主として言語や文化に関する内容の指導については、主としてコミュニケーションに関  
する内容との関連を図る。その際、言語や文化については体験的な理解を図り、指導内容  
が必要以上に細部にわたったり、形式的になったりしないようにする。

- ・外国語を用いたコミュニケーションを通して、児童が日本語と外国語との違いを知り、  
言葉の面白さや豊かさに気付くようにする。
- ・言語や文化についての知識を単に与えるのではなく、言語や文化を題材にして、児童が  
実際に外国語を聞いたり話したりするなどコミュニケーションを体験することを通し  
て、言語や文化について理解するようにする。
- ・知識として理解させたり、機械的に単語や語句、文を暗記させたりすることなどで、児  
童の自己表現したいという気持ちやコミュニケーションを図ることへの興味を失わせる  
ことのないように留意して指導する。

- 指導内容や活動については、児童の興味・関心にあったものとし、他教科等で児童が学  
習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めるようにする。

- ・ 広く言語教育として、国語教育をはじめとした学校におけるすべての教育活動と積極的に結び付けることが大切。児童が国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等で得た知識や体験などを生かして活動を展開することで、児童の知的好奇心を更に刺激する。
- ・ 他教科等の学習の成果を、外国語活動の中に適切に生かすためには、相互の関連について検討し、指導計画に位置付けることが必要。

#### ○ 指導計画の作成や授業の実施

- ・ 学級担任又は外国語活動を担当する教員が行うこととし、授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーの活用に努めるとともに、地域の実態に応じて、外国語に堪能な地域の人々の協力を得るなど、指導体制を充実する。



#### 学級担任又は外国語活動担当の教員の役割

- ・ 児童を理解し、興味・関心についても把握した上で、指導計画の作成や授業の実施を行う。
- ・ 児童が初めて出会う外国語への不安を取り除き、失敗を恐れない雰囲気をつくり出す。
- ・ ネイティブ・スピーカーや、外国生活の経験者、海外事情に詳しい人々、外国語に堪能な人々の協力を得ることも必要。

#### ○ 視聴覚教材を積極的に活用する。

- ・ 外国語の音声やリズムに慣れ親しませる指導に際しては、児童に外国語の音声に触れさせることが大切であるので、視聴覚教材の積極的な活用も極めて有効。



#### 視聴覚教材について

- ・ 児童にとって身近なネイティブ・スピーカーの音声で作成されたものや、我が国も含めたさまざまな国や地域の行事等を紹介したものなどを活用することは有効。
- ・ 過度に文字を習得させることや、簡単な定型対話文を過度に暗記させ演じさせることなどを目的にしたものを活用することは、目標にそぐわない。

#### ○ 道徳の時間などとの関連を考慮しながら、外国語活動の特質に応じて適切な指導をする。

- ・ 学習活動や学習態度に配慮する。
- ・ 教員の態度や行動による感化を図る。
- ・ 言語と文化について体験的に理解を深めることにより、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。
- ・ 外国語活動と道徳の時間が相互に効果を高め合うように、道徳の時間の指導との関連を考慮し、外国語活動の年間指導計画を作成する。

### (2) 内容の取扱い

#### ○ 2学年間を通じ指導に当たっては、次のような点に配慮する。

- ① 児童の発達の段階を考慮した表現を用い、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定する。



- ・外国語を初めて学習する段階であることを踏まえ、児童が積極的にコミュニケーションを図ることができるように、外来語など児童が聞いたことのある表現や身近な内容を活用し、高学年の児童の発達の段階や興味・関心にあった身近なコミュニケーションの場面で、外国語でのコミュニケーションを体験させる。

② 音声面を中心とし、文字や単語の取扱いについては、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いる。

- ・聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4技能の中で、音声によるコミュニケーションを重視し、聞くこと、話すことを中心とする豊かなコミュニケーションを体験させる。
- ・音声面の指導については、さまざまな工夫をしながら聞くことの時間を確保し、聞き慣れた表現から話すようにさせるなど、児童にとって過度の負担にならないように指導する。
- ・単なる表現の繰り返しの活動だけではなく、コミュニケーションの場面に応じた表現ができるようにはどうすればよいかなど、体験の中で児童に気付かせる。



文字の指導について

- ・文字の指導については、音声に慣れ親しんだ段階で開始するよう配慮し、例えばアルファベットの活字体の大文字及び小文字に触れる段階にとどめるなど、中学校外国語科の指導とも連携させ、児童に対して過度の負担を強いることなく指導する。
- ・発音と綴りの関係については、中学校学習指導要領により中学校段階で扱うものとされており、小学校段階では取り扱うこととはしていない。

③ 言葉によらないコミュニケーションの手段もコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、ジェスチャーなどを取り上げ、その役割を理解させるようにする。

- ・ジェスチャーや表情などを加えて話すことで、自分の思いをより正確に伝えたりすることができるなど、言葉によらないコミュニケーションの役割を理解するように指導する。
- ・さまざまなジェスチャーや表情が表す意味を比較する中で、日本と外国との違いや共通点に気付かせ、多様なものの見方や考え方があることに気付かせるように配慮する。

④ 外国語や外国の文化だけでなく、日本語や日本の文化についても併せて理解を深めることができるようにする。

- ・言語や文化に関心をもち、世界の人々と相互の立場を尊重、協調しながら交流を行っていけるようにする。



- ・さまざまな言語に触れたり、人々の日常生活に密着した生活文化や学校に関するものなど幅広い題材を取り扱ったりすることで、児童の興味・関心を踏まえ、特定のものに偏らないように心がける。
- ・知識の伝達に偏らないように注意する。

- ⑤ 次に示すようなコミュニケーションの場面やコミュニケーションの働きを取り上げるようにする。

〔コミュニケーションの場面の例〕

「特有の表現がよく使われる場面」

- ・あいさつ ・自己紹介 ・買い物 ・食事 ・道案内 など

「児童の身近な暮らしにかかわる場面」

- ・家庭での生活 ・学校での学習や活動 ・地域の行事 ・子どもの遊び など

〔コミュニケーションの働きの例〕

- ・相手との関係を円滑にする。(礼を言う、褒める、丁寧表現 など)
- ・気持ちを伝える。
- ・事実を伝える。
- ・考えや意図を伝える。(発表する など)
- ・相手の行動を促す。(道案内をする など)

- 児童の学習段階を考慮して各学年の指導に当たっては、次のような点に配慮する。

① 第5学年における活動

外国語を初めて学習することに配慮し、児童に身近で基本的な表現を使いながら、外国語に慣れ親しむ活動や児童の日常生活や学校生活にかかわる活動を中心に、友達とのかかわりを大切にしたい体験的なコミュニケーション活動を行うようにする。

- ・「あいさつ」、「買物」、「学校生活」など友達や家族、地域、社会とのつながりに焦点をあてた身近な話題に関する活動を行い、友達とのかかわりを深めていく。友達とのやり取りを通して、友達や自分のよさをよりよく再認識することで、他者理解や自尊感情などを高める。

② 第6学年における活動

第5学年の学習を基礎として、友達とのかかわりを大切にしながら、児童の日常生活や学校生活に加え、国際理解にかかわる交流等を含んだ体験的なコミュニケーション活動を行うようにする。

- ・「世界のさまざまなあいさつ」、「世界の子どもたちの生活」、「夢」など、第5学年での経験を世界へのつながりや広がりに関する活動へと発展させていく。児童の視野を世界へと広げるとともに、日本の文化、国語、自分自身にも興味をもたせることにつなげる。



- ・2学年間を通じて、コミュニケーションの場面や働きに配慮した体験的なコミュニケーション活動を行わせるに当たっては、児童の日常生活、学校生活など児童にとって身近で基本的な表現を使いながら、友達とのかかわりからはじめ、国際理解にかかわる交流などに発展させることができる。
- ・ここで示されているものは2学年間を通しての大きな流れであり、学校や学級の実情に合わせて弾力的に扱うことが可能である。

## 5 外国語活動Q & A

**Q 1** : 指導者として、英語を聞く力を伸ばしたいと思います。どのような練習をすればいいでしょうか。

A : 単に英語を聞くだけでなく、声に出して言うことが大切です。英語ノートで扱われている表現や小学校外国語活動ガイドブック（文部科学省）の実習編などに出ているクラスルームイングリッシュなど、実際に授業の中でALTや学級担任が使う英語を中心にCDやインターネットなどを活用して声に出して練習してみてください。

**Q 2** : 発音など自分の英語力に自信がありません。自分の発音では、児童に間違った発音を教えてしまうのではないのでしょうか。

A : 指導者として、自ら正しい発音を身に付けようと努力することは大切です。ただ、外国語活動の目標は、正しい文法や発音など英語の知識や技能を児童の身に付けさせることではなく、言語や文化についての体験的理解、コミュニケーションへの積極性、外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみなどのコミュニケーション能力の素地を育成することにあります。ですから、授業における学級担任の役割は英語の発音のモデルになることではありません。発音のモデルは音声CDやデジタル教材を活用したり、ALTや地域の方などをお願いしたりしながら、英語を使って進んでコミュニケーションを図ろうとする姿を示すことが、学級担任の最も大切な役割です。不完全な表現でも下手な発音でも恥ずかしくせずに、言いたいことを声に出して伝えていこうという姿勢を児童の身に付けさせたいものです。

**Q 3** : 英語の歌を歌うとき、正しい発音ができないままで、楽しむだけで終わっていますが、それでいいのでしょうか。

A : 英語の歌を楽しんで歌っていることは素晴らしいことです。体の動きを付けたり、歌詞の一部を変えたりしながら、何度も聞き、まねて歌う中で、英語のリズムやイントネーション、発音などに慣れ親しんでいくことは大切ですが、とりたてて正しく発音させる指導をしていく必要はないでしょう。

**Q 4** : 学級担任もできるだけ英語を使った方がいいのでしょうか。また、どの程度、英語で話せばいいのでしょうか。

A : できるだけ英語で話そうとする姿勢は大切ですが、授業中すべて英語で話せばいいというものではありません。授業の中では、児童が英語を使ってコミュニケーションを図る時間を最大限確保することが大切です。そのためには、説明、指示、注意などについては、日本語を効果的に使うことも必要でしょう。学級担任が英語を使うべきなのは、児童が授業の中で使う単語や表現を自ら英語で示す場面、授業の始めと終わりのあいさつや毎時間使うクラスルームイングリッシュ、児童をほめる場面などが考えられます。いずれにしても、最初は無理をせずに、慣れとともに英語を使う場面を徐々に増やしていったらどうでしょうか。

Q 5 : 児童はALTの先生の言葉を聞き取って、まねることに戸惑いがあるように思います。恥ずかしがらずにまねたり、話すことができるとういのですが・・・。

A : 外国語活動に限ったことではありませんが、授業の中で、児童が失敗を恐れず、どんどん新しいことに挑戦していくためには、失敗しても、下手でも、互いに笑ったりからかったりしない学級の雰囲気や人間関係をつくることが何よりも大切です。また、チャレンジしてみたいと思えるように、活動に工夫を加えることも必要になってくるでしょう。

Q 6 : 文字については、学習指導要領では「過度な指導は行わない」とありますが、英語ノート2のLesson2では、身近にある英語表記を書き写すような活動があります。小文字の高さ等、児童が間違いやすいところもあるので、どう指導を進めればよいのでしょうか。まちがいをそのままにしておいてよいとは思えません。きちんと指導をしようと思えば、指導時間も足りず、学習指導要領の趣旨とも合わなくなってしまうように思いますが、どうすればよいのでしょうか。

A : 書き写す際には文字の特徴に着目させながら注意深く書き写させることが大切でしょう。ただし、書き写す活動は、英語の文字の特徴に触れたり、ある程度個々の文字を認識したりすることをねらいとしたもので、正しく書けるようになることを目的としてはいません。アルファベットを正しく書くことは中学校で学習する内容ですので、小学校では、身の回りに書かれている英単語などを、注意して書き写させる程度の指導が適切でしょう。

Q 7 : 音声だけだと反応がよくない児童がいます。この児童に文字を提示するとよい反応を示します。この児童のことを考えると、文字を使いたいと思いますが、どうでしょうか。

A : 高学年になると多くの児童が文字に関心を示します。こういった児童の目に文字に触れさせるということは、意味のあることです。掲示物や絵カードに文字を添えたり、授業で使う表現を文字で提示したりすることなどが考えられます。ただし、文字を読ませることを授業の中ではしないでください。週1時間では文字を読むまでの指導は極めて困難でしょう。文字はあくまでも添えられているだけで、活動は文字が添えられていなくてもできることを前提として行う必要があります。

Q 8 : 児童の間違い（正しくない表現等）をどうとらえたらよいのでしょうか。どこまでを許容して、どういった間違いを訂正すればよいのでしょうか？

A : 大切なことは、多少の間違いがあったとしても、臆さずに声に出して相手に伝えようとする態度を子どもたちに養うことです。ですから、間違いを見付けたとしても、指摘して言い直させたり、正しい表現を繰り返し練習させたりすることは極力避けたいものです。全く意味の違うことを言っているのであれば、言い直す必要もありますが、おおむね、言いたいことを伝えている場合には、間違いを指摘する必要はありません。もし児童が“I like apple.”と言ったら、学級担任が“Oh, you like apples.”とさりげなく言い直すなど、本人が自ら気付く状況をつくるなどの配慮も大切です。

Q 9 : 意欲の低い児童に対して意欲を高めるには、どのような工夫をすればよいのでしょうか。

A : 意欲が低い児童については、なぜ外国語活動に対して意欲が低いのかを個々に分析する必要があるでしょう。一般的に言えることは、楽しく活動しようという学級の雰囲気づくりが大切

だということでしょう。活動については、難しすぎないか、易しすぎないかを吟味するとともに、高学年であることを考慮し、興味・関心に応じた話題の設定や、知的好奇心を刺激するような活動の工夫をすること、またその中でその児童の頑張っているところを最大限にほめることなどが考えられます。児童が、分かり、安心し、自信をもてる活動を工夫することが大切でしょう。

**Q10：ALTと学級担任とのチームティーチングの中で、それぞれの役割分担が難しいのですが、どのように考えればいいでしょうか。**

A：チームティーチングにおいて、ALTは学級担任の指示のもと、児童に生きた英語の提供者として、自然な言語の使い方や発音を指導したり、文化を紹介することが主な役割になります。また、学級担任は、ALTの英語に対する児童の理解を助け、どの児童も授業に参加し、ALTや学級の友達とのコミュニケーション活動ができるよう授業をコントロールし、進行していくことが主な役割です。学級担任の役割を整理すると、1) 指導案を作成すること、2) 授業を進行すること、3) 児童と一緒に活動する中で外国語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとするモデルになること、4) ALTの言葉を繰り返したり、ALTに質問したりしながら児童の理解を助けること、5) 授業の目標に沿った評価を行い、児童の学習意欲や自信を高めるような適切なフィードバックを行うことなどがあげられます。

**Q11：ALTとの打合せの時間がほとんどありません。どのような工夫をすればいいでしょうか。**

A：忙しい業務の中で、ALTや地域人材との打合せの時間がなかなかとれないのは多くの学校で共通の悩みです。できるだけ先を見通して、年間指導計画や指導方針、授業の基本的なパターンの確認を年度や学期が始まる時に確認しておくことが大切でしょう。また、各授業の打合せについてもできるだけ早め早めに行うことが大切です。また、ファックスや電子メールなどを利用して指導案を送り、疑問点を送り返してもらうなどの工夫により、打合せの時間を短縮することができるでしょう。

**Q12：同一中学校区内で、各小学校における指導内容等の違いがありますが、どうすればいいでしょうか。**

A：小学校によって多少の指導内容のばらつきは出てくるものです。外国語活動の目標はコミュニケーション能力の素地を養うことですから、英語ノートなどの教材で扱う題材や言語材料に違いが出てくることは十分に考えられますし、それ自体問題があることではありません。ただ、同一中学校区内では、小学校間で十分に連絡を取り合い、それぞれの学校での指導内容や指導方法について情報交換を図りながら、指導に一定の共通性をもたせることにより、中学校での指導がよりスムーズになるでしょう。小学校での指導内容等を中学校へ情報提供することも、小・中のスムーズな接続を図る上で重要です。

**Q13：外国語活動の評価の在り方について教えてください。**

A：外国語活動の目標であるコミュニケーション能力の素地を支える三つの柱、すなわち、言語や文化についての体験的理解、コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度、外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ、が評価における観点になります。この三つの観点にかかわ

ってそれぞれの単元で評価規準を作成し、評価を行っていく必要があります。評価方法については、行動（発表）観察、英語ノート（作品）の点検、振り返りシートの活用などが考えられます。移行期間においても外国語活動を実施する場合は、児童指導要録へは、外国語活動としての評価が必要です。教科ではありませんので評定はしません。活動内容、評価の観点、評価を文章で記述することになります。評価をする上で大切なことは、「話すことができる」など、外国語の知識や技能の習得にかかわる評価にならないようにすることです。

## 6 指導例

### ◆ 指導例1 単元名「NARA SUGOROKUで遊ぼう」（全4時間）

#### 1 英語ノートとの関連

英語ノート1 Lesson3 「数で遊ぼう」

#### 2 単元の目標

- ・ALTに伝える活動を通して、奈良県や身近な地域のよさに気付く。
- ・積極的に数を使ったゲームをしようとする。
- ・1～20の数を使っていろいろなゲームをする。

#### 3 本単元における奈良県らしい指導について

平成22年に平城遷都1300年を迎える奈良。県内には世界遺産など歴史的価値の高いものや、それぞれの地域の暮らしの中で、人々が大切に守り育ててきたものが数多くある。本単元では、これら『郷土奈良県』の魅力をもALTなど外国の人に発信する活動を通して、児童に自分の住む故郷を見つめ直させ、そのすばらしさに気付かせたい。

#### 4 使用語彙と表現

語彙	表現	
Numbers (1～20)	How many ? This is ~ . How are you?	What number ? I'm ~ .

#### 5 指導計画

##### 第1時：数字で遊ぼう

目標 ・ 1～10の数を言い、11～20の数の言い方を知る。

時間	児童の活動	学級担任の活動	・留意点☆準備物
2分	・挨拶をする。 Good morning (Hello). I'm ~ .	・全体に挨拶をする。 Let's start today's class. Good morning (Hello), everyone. How are you?	

		<p>・児童にペアを組ませて、一人一人が挨拶できるようにする。挨拶が終わった後は、それぞれ何と答えたか質問をする。</p> <p>Make pairs. Ask your partner, "How are you?" Please tell me your feeling. Raise your hand. Who is hungry? Who is sleepy?…</p>	
15分	<p>・“Ten Steps” を歌う</p> <p>・指定された1～10の数を発音する代わりに、手をたたき歌を歌う。</p> <p>1 × 3 4 5 6 7 1 × 3 4 5 6 7 8 9 10 8 9 10 1 × 3 4 5 6 7</p> <p>・1～10の数を逆から歌う。</p> <p>7 6 5 4 3 2 1 7 6 5 4 3 2 1 10 9 8 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1</p> <p>・ランダムに並べ替えた1～10の数を歌う。</p> <p>5 2 1 8 3 4 6 5 2 1 8 3 4 6 10 9 7 10 9 7 5 2 1 8 3 4 6</p>	<p>・1から10までの数字のカードを貼りながら、発音をする。そして、様々な歌い方の指示を出し、児童といっしょに歌う。</p> <p>Today's song is "Ten Steps". Let's sing the song.</p> <p>・指導者は児童に好きな数字を答えさせる。児童といっしょに歌う。</p> <p>What number do you want me to erase? O.K. Now don't say the number 2. Clap your hands instead.</p> <p>・数字カードを逆から貼る。児童といっしょに歌う。</p> <p>Let's make it more difficult! Next let's reverse the song. Are you ready? Let's try.</p> <p>・指導者は児童に好きな数字を答えさせ、児童が答えた順にカードを並べ替える。</p> <p>Let's make it most difficult! Next let's make a song. What number do you like? Are you ready? Let's try.</p>	<p>◎英語ノート： p. 17</p> <p>“Let's Sing”</p> <p>☆CD ☆1～10のカード</p> <p>※CDの代わりにキーボードでリズムをとる方法でもよい。</p>
10分	<p>・11～20の数の言い方を知る。</p> <p>・チャンツを言う。</p>	<p>・11～20の数のカードを見せながら数字を順に言う。</p> <p>Practice pronouncing “11～20”.</p> <p>・11～20の数のカードを黒板に貼り、チャンツを言う。</p>	<p>☆11～20のカード</p>

7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キー・ワード・ゲームをする。</li> <li>①指導者が言う単語を繰り返す。</li> <li>②指導者がキーワードを言ったら、その後を繰り返さず、手を挙げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムにのりやすいようにキーボードなどでリズムをとる。</li> <li>Let's play "Key Number Game".</li> <li>Repeat after me.</li> <li>2(→ students:2) 15(→ students:15)</li> <li>Very good.</li> <li>Now "5" is the key number.</li> <li>If I say "5", raise your hand.</li> <li>O.K? Let's start.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆キーボード</li> <li>・方法をデモンストレーションで示し、児童がより理解できるようにする。</li> <li>・キーワードが出てきて手を挙げても、活動をストップせずにHRTは数字を続けて言い、活動が継続できるようにする。</li> </ul>
8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NARA SUGOROKUを作ることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NARA SUGOROKUの説明を行う。NARA SUGOROKUには、ALTに紹介したい奈良の名所や民芸品、食べ物などを示した「奈良」マスを設定することを知らせる。そして、次の活動までに、どういったものを紹介してみたいか、その理由も含めて考えておくように伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NARA SUGOROKUには、さまざまな奈良の名所や民芸品、食べ物などをマスに出すので、ALTにどういったものを紹介したいか考えておくように伝える。</li> </ul>
3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りをする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の英語を使おうとする態度についてよかったところをほめる。</li> <li>・挨拶をする。</li> <li>This is all for today.</li> <li>See you next time.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の意欲につながるように、具体的に児童のよかったところを評価する。</li> </ul>

### 第2時 : NARA SUGOROKUを作ろう

目標 ・ 1～20の数を言う。

・ ALTに伝えたい奈良の名所や特産品などを考える。

時間	児童の活動	学級担任の活動	・留意点 ☆準備物
2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> <li>Good morning (Hello).</li> <li>I'm ~ .</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をする。</li> <li>Let's start today's class.</li> <li>Good morning (Hello), everyone.</li> <li>How are you?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時と同じ展開を行い、授業の開始をパターン化することにより、I'm ~ .の言い方に慣れ親しむようにする。</li> </ul>
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11～20までの言い方を復習する。</li> <li>・"Twenty Steps"を歌う。</li> <li>・ランダムに並べ替えた11～20の数を歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11～20までの数字でチャンツを言う。</li> <li>・11～20までの数字のカードを貼りながら、発音をする。そして、様々な歌い方(歌うスピードの変化、第1時で行ったような歌い方など)を指示し、児童といっしょに歌う。</li> <li>Today's song is "Twenty Steps".</li> <li>Let's sing the song.</li> <li>・11～20までの数字をアランダムに並べる。</li> <li>Now, I will make a song.</li> <li>Can you sing this song?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆CD</li> <li>☆11～20のカード</li> <li>※CDの代わりにキーボードなどでリズムをとる方法でもよい。</li> </ul>



		Are you ready? Let's sing.	
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者の発音する数字を指で指す。</li> <li>指導者の発音する数字を線で結ぶ。</li> </ul>	数字のシートを配り、数字を読む。 Listen carefully. I will say a number. Point at the number on your sheet. Do you understand? Let's start. “Let's Listen” の数字を読む。 Open your textbook to page 18. Listen to the CD / me and connect the dots.	☆1～20までの数字が書いてあるシート ・児童の様子を見て、スピードを変えてもう一度行う。 もっと速く／もっとゆっくり ※二人組を作って、交互に指をさす方法もよい。 ☆英語ノート：p. 18 “Let's Listen” ☆CD ・一時停止ボタンを有効に使う。 ※HRTが読み上げてもよい。
20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>NARA SUGOROKUの作り方を知る。</li> <li>NARA SUGOROKUをグループで相談し完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NARA SUGOROKU を作ることを告げる。</li> <li>①「奈良」マスの数を伝える。</li> <li>②ALTに紹介したい奈良の名所や民芸品、食べ物などをどうして「奈良」マスに選んだかも話し合わせる。</li> <li>③「奈良」マスを書きこませる。</li> </ul>	☆NARA SUGOROKUシート ・グループでシートを完成させている間、指導者は各グループにWhat's this? などと声をかけ、対話する。
3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りをする。</li> <li>挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の英語を使おうとする態度についてよかったところをほめる。</li> <li>挨拶をする。</li> </ul> This is all for today. See you next time.	・次時の意欲につながるように、具体的に児童のよかったところを評価する。

### 第3時：NARA SUGOROKUで遊ぼう

- 目標
- ・数を扱ったゲームを友達とやり取りしながら楽しむ。
  - ・奈良県や身近な地域のよさに気付く。

時間	児童の活動	学級担任の活動	・留意点 ☆準備物
2分	・挨拶をする。	・全体に挨拶をする。	※第1時と同様に行う。
5分	・“Twenty Steps”を歌う。	・児童といっしょに歌う。 Today's song is “Twenty Steps”. Let's sing the song.	☆CD (キーボード) ☆11～20のカード ※様々な歌い方をし、児童があきずに歌えるようにする。
15分	・「奈良」マスにどのようなものを選んだか、グループごとに発表する。	・発表の方法をデモンストレーションで示す。 Intruduce your "NARA SUGOROKU" one by one. I'll give an example. 10(ten). This is <i>Narafude</i> .	☆OHC ・児童が「奈良」マスを紹介しているとき、指導者はなぜそれを選んだかを質問し、理由を答えさせるようにするとよい。

		18(eighteen). This is <i>Daibutsu</i> . O.K? Now Group1, come to the front. Please introduce your “NARA SUGOROKU”.	い。 ※学級の児童全員にシートが見えるように紹介する。
20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>1～20までの数の言い方を確認する。</li> <li>ゲームの方法を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>11～20までの数字でチャンツを言う。</li> <li>ゲームの方法を説明する。</li> </ul> <p>①NARA SUGOROKUのシートを囲んで座り、1人ずつコマをもって順番を決める。 Let’s play“NARA SUGOROKU”. Make groups. Sit in a circle. Put “SUGOROKU sheet” on the desk. Put your erasers on the sheet. Decide your order.</p> <p>②サイコロをふる。 Roll the dice.</p> <p>③コマの止まったところの数字を英語で言う。 When you stop, say the number in the box.</p> <p>④止まったところが、「奈良」マスであれば、“This is ～.” と言い、2マス更に進める。 If you stop at the “NARA BOX”, you must explain that box. For example, if you stop at <i>Daibutsu</i>, you must say “Eighteen. This is <i>Daibutsu</i>.” Then you can go 2 spaces forward.</p> <p>⑤「指令」マスの説明を聞く。 I’ll explain the “SHIREI BOX”. If you stop at “You miss a turn”, you can’t roll the dice at your next turn. If you stop at “Go back 3 spaces”, you must go 3 spaces backward.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャンツ等を使って、数字の言い方を確認することで、すごろくをより楽しめるようにする。</li> <li>☆NARA SUGOROKUシート</li> <li>☆1～3までの目が書いてあるサイコロ。</li> <li>※数が限られているため、1度に進める数は3までとするほうがよい。</li> <li>・児童がサイコロをふったら、周りの児童は、そのサイコロの目を <b>How many?</b> マスに止まったら同様に <b>What number?</b> と質問し、数字を英語で答えられるように促すとよい。</li> <li>※英語で説明することが、児童にとって難しく時間を要するのであれば、日本語で説明をし、児童の活動の時間を確保する。</li> <li>・「指令」マスを実際に提示しながら、説明するとよい。</li> </ul>
3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りをする。</li> <li>挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の英語を使おうとする態度についてよかったところをほめる。</li> <li>挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の意欲につながるように、具体的に児童のよかったところを評価する。</li> </ul>

**第4時**：みんなでNARA SUGOROKUをして遊ぼう

- 目標 ・ 数を扱ったゲームを友達とやり取りしながら楽しむ。  
 ・ 奈良や身近な地域のよさを、積極的にALTに伝えようとする。

時間	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	・留意点☆準備物
5分	・挨拶をする。	・全体に挨拶をする。指導者2人で児童を分担して一人一人の児童と挨拶をする。		
5分	・“Twenty Steps”を歌う。	・児童といっしょに歌う。		☆CD (キーボード) ☆11~20のカード ※第3時とは違う歌い方をし、児童があきずに何度も歌えるようにする。
27分	・学級の児童全員でグループ対抗のNARA SUGOROKUをすることを伝える。  ・それぞれのグループで、シートに書きこむ「奈良」マスを決める。 ・グループごとに、選んだ「奈良」マスを発表する。 ・NARA SUGOROKUをする。	・拡大コピーしたすごろくシートを使って、ALT&HRTチームとそれぞれのグループが1チームとなってクラス全員でNARA SUGOROKUを行うことを伝える。 ・ゲームの方法を確認する。  ・グループごとに「奈良」マスを発表させ、シートを完成させる。	・「奈良」マスの説明をしているグループに対してWhat's this?と質問する。	☆拡大コピーしたすごろくシート  ・指導者は自分たちの選んだ「奈良」マスを、まずデモンストレーションしてみせ、児童が発表の仕方を理解しやすいようにする。 ・児童が、ジェスチャーなどを使って説明しようとしていたら、それをほめる。
5分	・ALTから出身国の名所などを聞く。	・ALTに、自分の出身国の紹介したいことを尋ねる。 <b>Will you tell us about your country?</b>	・自分の国について紹介したいことを話す。	・ALTは児童が、より具体的にイメージできるような写真や実物を見せる。
3分	・振り返りをする。  ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度についてよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	・児童の英語についてよかったところをほめる。	・具体的に児童のよかったところを評価する。

※ 本単元は、第1時から第3時までは、学級担任が単独で授業を行い、第4時ではALTと学級担任がチームティーチングで行うことを想定している。

第1時から第3時においても、ALTを活用できる場合は、歌やチャンツ、ゲームの説明などはALTが担当するなどして、授業を行うとよい。第4時にALTが活用できない場合は、地域人材などに協力を依頼するなど、児童が奈良県や自分たちの地域について伝える相手がいるようにしておきたい。

# NARA SUGOROKU

The board game is played on a 10x3 grid of squares. The squares are numbered 1 through 20, starting from the bottom-left and moving right, then up the next column, and so on. The top-right square is labeled 'GOAL' and the bottom-left square is labeled 'START'. A rabbit illustration is in the top-left corner. A rule box is located in the bottom-right area of the board.

**【ルール】**

- ◎ 自分のとまったマスの数字を英語で言おう。
- ◎ 「奈良」マスにとまったら、This is ～ と紹介をしよう。紹介できたら、2マス進めるぞ。
- ◎ 「指令」マスにとまったら、そのマスの指令にしたがおう。

## ◆ 指導例2 単元名「アルファベットで遊ぼう」(全3時間)

## 1 英語ノートとの関連

英語ノート2 Lesson1 「アルファベットで遊ぼう」

## 2 目 標

- ・アルファベットに興味をもつ。
- ・積極的にアルファベットの文字を見付けて読む。
- ・アルファベットの読み方を聞いて、それがどの文字か分かる。

## 3 本単元における奈良県らしい指導について

外国語活動の指導内容や活動については、他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めるようにすることが必要である。また、本県児童の課題として、体力が低いことが挙げられる。それらを踏まえ、この単元では、全身反応教授法(TPR: Total Physical Response)に基づき、活動の中に、身体を使った運動遊びの要素を取り入れた。児童に身体を動かすことを楽しませながら外国語に慣れ親しませたい。

## 4 使用語彙と表現



語 彙	表 現
A～Zのアルファベットの文字 toe, elbow, shoulder, navel, head, knee, hand, foot (right, left)	What's this? It's the letter "～".

## 5 指導計画

第1時：アルファベットを探そう

目標 ・アルファベットに興味をもち、聞いた文字を声に出して言う。

時間	児童の活動	学級担任の活動	・留意点☆準備物
5分	・ Greeting / 挨拶をする。 Hello. How are you? I'm ~.	・ 挨拶をする。 Hello. How are you? I'm ~.	・ 運動のできる服装に着替えて行う。
10分	・ Activity / やってみよう。 壁に貼ってあるカードの中からアルファベットのA～Zの文字を見付ける。 ・ 指導者が見せる大文字アルファベットカードの文字の読み方を聞いて、壁にランダムに貼られたアルファベットカード(同一文字複数あり)の中からその文字を見付ける。 ・ 見付けたカードを指で押さえ、アルファベットの読み方を言う。	・ 大文字アルファベットカードを見せ、発音する。 This is the letter "A". Where is "A" on the wall?	・ BGMを流すなど、児童が積極的に活動できる雰囲気をつくる。
10分	・ "Let's Sing" / 歌おう。 「The Alphabet Song」	Let's sing "The Alphabet Song" together.	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介を聞く。</li> <li>・ CDの歌を聞く。</li> <li>・ カードを見ながら歌う。</li> <li>・ 歌に合わせて体を動かす。</li> </ul> <p>①横一列に並んで長座し、A～Gは左隣にいる児童の膝をリズムに合わせてタッチする。H～Nは右隣にいる児童の膝をタッチし、O～Uは2つ左隣の児童の膝をタッチ、V～Zは2つ右隣の児童の膝をタッチする。</p> <p>②2人組で向かい合って、リズムに合わせて左右にジャンプする。(この時、2人が互い違いの方向にジャンプするようにする。)曲に合わせてG, N, U, Zの時だけ、ジャンプの方向を前後に変える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 黒板等にアルファベットの文字を貼り、歌を紹介する。</li> <li>・ しっかり聞くように促す。</li> <li>・ まちがってもよいので、それを口に出して歌うように助言する。</li> <li>・ 声を出すことの重要性を意識させ、体を動かしながらも、できるだけ大きな声で歌うように声をかける。</li> </ul>  	<p>※英語ノートCDト ラックナンバー3 ☆アルファベットカ ード ☆CD、プレーヤー など</p>
<p>15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ “Let’s Play” / ゲームをしよう「ツイスターゲーム」</li> <li>・ 床にアルファベットカードを並べる。</li> <li>・ アルファベットの文字の読み方を聞き、そのカードに片手、片足のどちらかで触れていく。</li> <li>・ 読み上げられるアルファベットに順に触れ、体勢が崩れるまで続ける。</li> <li>・ 崩れたら、グループ内で次の児童と交代する。</li> </ul>	<p>Let’s play “Twister Game”.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アルファベットの文字を読む。</li> </ul> <p>Put your hand or foot on the alphabet card.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 並べたカードは移動させない。</li> <li>・ 簡単すぎるようなら、カードの間隔を広げたり、「次は右手で」など、触れる部位を制限するなど工夫する。</li> </ul>
<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Look back &amp; Greeting / 振り返りとあいさつをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童のよかったところをほめる。</li> </ul>	

**第2時** : アルファベットをかこう

目標 ・アルファベットの読み方を聞いて、それがどの文字か分かる。

※活動は、ろくぼくのある体育館やジャングルジムなどで行う。









時間	児童の活動	学級担任の活動	・留意点☆準備物
3	・ Greeting / あいさつをする。	Hello. How are you?	・ 運動のできる服装に着

分	Hello. How are you? I'm ~.	I'm ~.	替えて行う。
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• “Let’s Sing” / 歌おう。</li> <li>「The Alphabet Song」</li> <li>①A～Gはスキップ、H～Nはキャリオカステップ、O～Uは逆向きにキャリオカ、V～Zは後ろにスキップをする。</li> <li>②ペアで曲に合わせて動きを考え、発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Let’s sing “The Alphabet Song” together.</li> <li>• ①を前時と同様の要領で行わせる。</li> <li>• ペアで曲に合わせて動きを考えさせ、発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆CD、プレーヤーなど</li> <li>• よかったところを互いに認め合うような発言を引き出す。</li> </ul>
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• “Let’s Play 1”</li> <li>「身体で表現」</li> <li>• 指導者が言うアルファベットの文字の読み方を聞いて、それをグループで身体を使ってろくぼくやジャングルジムで表現する。</li> <li>What’s this?</li> <li>It’s the letter “～” .</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Let’s make the alphabets with your body.</li> <li>• アルファベットを読む。</li> <li>• グループで相互に正しい文字ができているかどうかを評価させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• うまくできていないグループや、鏡文字になっているグループには、具体的なアドバイスを出すようにさせる。</li> </ul>
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• “Let’s Play 2”</li> <li>「アルファベットカルタ」</li> <li>• アルファベットを聞いて、カードでカルタ取りをする。早く取った児童がそのカードをもらうことができる。</li> <li>• カードを取った児童は、相手の指示のとおり、体を使ってアルファベットを空書きする。</li> <li>• 取った枚数を最後に全員で確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アルファベットを読む。</li> <li>• つま先/toeで、ひじ/elbowで、肩/shoulderで、へそ(お腹)/navelで、頭headで等、具体的な指示の出し方を説明する。</li> <li>Draw the letter “O” using your ~.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆アルファベットカード</li> <li>※英語ノート巻末</li> </ul>
2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Look back &amp; Greeting / 振り返りとあいさつをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 児童のよかった点をほめる。</li> </ul>	

### 第3時：並んだアルファベットは何を表すのかな

目標 ・ローマ字と違ったアルファベットの綴りで表される言葉があることを知る。

時間	児童の活動	学級担任の活動	・留意点☆準備物
3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Greeting / あいさつをする。</li> <li>Hello. How are you? I'm ~.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Hello. How are you?</li> <li>I'm ~.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運動のできる服装に着替えて行う。</li> </ul>
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• “Let’s Play 1”</li> <li>「アルファベット鬼遊び」</li> <li>• 児童は1人1枚アルファベットカードを首から下げる。</li> <li>• アルファベットを聞き、そのカード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Let’s play “Alphabet Oniasobi”.</li> <li>• アルファベットを読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆アルファベットカード</li> <li>☆ホイッスルなど</li> <li>• BGMを流すなど、児童が積極的に活動できる雰囲気をつくる。</li> </ul>

	を持っている児童を見付けてタッチする。	・アルファベットを次々と読み、「鬼」を変えていく。	
12分	・“Let’s Sing”/“The Alphabet Song” ・グループで曲に合わせて動きを考えさせ、発表し合う。	Let’s sing “The Alphabet Song”together. ・前時と同様。	☆CD、プレーヤーなど
17分	・“Let’s Play 2”「身体で表現」「ステーション体操ゲーム」 ・綴られた順に2～9のステーション（※下枠参照）に行き、そこに示された動きをしてくる。	Let’s play “Station Training Game”. ・グループごとにアルファベットで綴られた単語（人物名や身近な言葉 EDISON、TOILET、PENCIL、SOCCER等）を提示する。	☆各ステーションごとの説明パネル ☆単語カード ・BGMを流すなど、児童が積極的に活動できる雰囲気をつくる。
<p>※ ABC → 2、DEF → 3、GHI → 4、JKL → 5、MNO → 6、PQRS → 7、TUV → 8、WXYZ → 9</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">1. スタート&amp;ゴール</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">2. またくぐり</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">3. 馬跳び</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">4. ジャンプ&amp;タッチ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">5. バービージャンプ</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">6. 背負い担ぎ</div> </div> <div style="text-align: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">7. 肩入れ</div> </div> <div style="text-align: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">8. 横伸ばし</div> </div> <div style="text-align: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">9. ボートこぎ</div> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>			
	・どのグループが早く終わられるか競争する。	・終わったグループには、単語が何を表しているのかを予想させる。	・運動の内容は、学級で日常親しんでいるもので構成するとよい。 ・回数は指定したり、ステーション番号の数だけ行ったりするなど、自由に設定する。
3分	・Look back & Greeting /振り返りとあいさつをする。	・児童のよかった点をほめる。	

※本単元は、学級担任が単独で指導することを想定している。

※活動は体育館やユーティリティスペース等、十分な広さがあり、壁面掲示ができる場所で行う。



— 作 成 委 員 —

松 並 淑 人	大和高田市立高田小学校	校 長
糸 谷 寛	橿原市立晩成小学校	教 頭
葛 和 正 則	奈良市立あやめ池小学校	教 諭
高 倉 敦 史	天理市立丹波市小学校	教 諭
中 永 利 法	奈良県立教育研究所	研究指導主事
相 知 美 佐	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指 導 主 事
前 田 康 二	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指 導 主 事

(作成委員の職名等は平成21年度のものである。)

